



## 日本山岳会 120 周年記念事業 山岳古道調査に加わってみませんか

本部山岳古道調査 PT 近藤雅幸

日本山岳会は創立 120 周年を迎えるにあたり、周年事業として日本の山岳古道の調査を行うことにしました。山岳古道の中から 120 を取り上げ、会員が調査し、文献にあたって情報のデータベースを作成、書籍を出版し、ネットで公開するというプロジェクトです。現在は古道の候補を挙げてもらっている段階です。4 月から 120 の古道を選び出し実際の作業に取り掛かり、2025 年の発表を目指します。

日本山岳会がなぜ、山岳古道の調査を行うのか。山に登りに行くと、必ずふもとの集落、道、峠、歴史、それらが織りなす風情に出会います。私も高山や雪山に飽きてきた 30 代のころに、そういうものに目が行くようになり、魅力に引き込まれていきました。特に引きつけられたのが古道でした。日本では、どこに行くにも峠を越えなければなりません。急峻な谷や、暴れだすと手が付けられない河川が多く、山の中腹や稜線に道をつくらざるを得ない場所も多かったと思います。古道を歩くことは登山そのものです。人間の息遣いや足音が聞こえてくるような、温かみと懐かしさがあります。

私も新型コロナが落ち着いたころ、支部で古道を歩く山行を企画したいと思います。古道を歩くうちに、山岳古道調査を行う理由がわかってくると思います。一人でも多くの支部会員がプロジェクトに協力してくれることを期待しています。



陽光を浴びて輝く大網峠の紅葉



大菩薩の紅葉

### 山岳古道調査

### 大菩薩の牛の寝大マテイ山を歩く

吉川三鈴



振り返り見た富士の雄姿

JAC120周年記念事業古道調査の候補である古甲州道を歩いた。

小屋平から石丸峠への急登に始まる。途中振り返り、堂々とした富士の雄姿と上日川ダム、谷に波打つ雲海にしばし見とれた。

石丸峠周辺の紅葉はすでに終わっていたが、榎ノ尾山まで下るとチラホラと美しい赤や黄色の木々が姿を見せ始めた。牛の寝



トチノ木の巨樹と対面

通過し、棚倉小屋跡から大マテイ山を巻き、山沢入りのヌタを経て、いよいよトチノ木の巨樹との対面。巨樹の貫禄もさることながら、この樹の住まう大谷がかもし出す神秘的な雰囲気驚いた。牛の寝では少し迷ったが、日没前に小菅の湯にたどり着きホッとした。

(写真/茂呂よしみ)

## 自然保護委員会

## 高尾山 人気の秘密と植生の不思議

河野悠二



講師の樹木医・石井誠治氏

10月29日(木)に自然保護委員会が講演会「高尾山 人気の秘密と植生の不思議」(石井誠治講師、森林インストラクター・樹木医)を、立川市女性総合センターで開催した。参加

者は36名(一般15名、会員21名)だった。

**<高尾山と薬王院>**ミシュランに紹介されてさらに人気の高まった高尾山は、日本一登山者の多い山だ。都心から足の便がいいことに加え、植物の種類がきわめて多いのも魅力の一つ。これには自然環境に加え、歴史的なことも大きい。薬王院の寺院の敷地には豊かな自然が残っているが、16世紀の戦国時代、この地を支配した北条氏が武田勢を阻止するために薬王院に土地を寄進し、聖域として森林の伐採を禁じた。また明治時代になっても、高尾山の森林の大部分は皇室の御料林として保護された。現在も高尾山は国有林、都有林、私有林が入り組んでいるものの、国定指定公園として大切に管理されている。

**<冷温帯と暖温帯>**薬王院がある場所から尾根は東西に延びている。北斜面は低温帯植物の落葉広葉樹のブナ、イヌブナ、コナラなど、南斜面は暖温帯(亜熱帯)植物の常緑広葉樹のシラカシ、アカガシ、ヒイラギ、サカキなどが植生している。冷温帯と暖温帯



緑に包まれた薬王院本殿



自然林や人工林が混在する斜面

の境目は年の平均気温が13度だが、高尾山はその境目に位置しているため、両方の植生が見られる。そのため樹々や草花は1600種類あり、イギリス全土に自生する植物の数に匹敵する。

**<高尾山の代表的な樹木>**高尾山の自然林の代表的な樹木はイヌブナだ。ケーブルの高尾山駅から薬王院へ向かう道に多い。イヌブナとブナは毛の生えたような葉や三角錐の木の実が似ているが、イヌブナは幹が黒っぽくてブツブツしており、ブナは灰白色でスベスベしている。イロハカエデ(タカオカエデ)、イロハモミジ(タカオモミジ)も自生していたもので、秋には燃えるような紅葉を見せる。一方、人工林の代表的なものはスギとヒノキだ。

**<高尾山の悩み、シカとナラ涸れ>**平成12年までシカはいなかったが、それ以降監視カメラによく写っている。シカは急斜面が苦手なので歩きやすい尾根道沿いの植生が荒らされる。またブナ、カシ、ナラの樹木などが、カシノナガクイムシ(通称カシナガ)によって寄生されて涸れる「ナラ涸れ」も悩みの種だ。

**<自然を手で感じる>**「サカキ」と「タカノマキ」の枝を回覧し、手で葉に触れる。ツルツルの表は雨などを流し、ザラザラの裏は気孔があり水が入らないようにするとそれぞれの役割があることを聞く。

石井講師は熱心でエネルギーあふぬお話で会場を包み、予定時間をオーバーしたほどだった。

(写真/石塚嘉一他)

イヌブナは自然林の主役



## 安全対策研修会「緊急時現地(遭難対策本部)対応シミュレーション」 安全対策委員会委員 吉川三鈴

2020年11月18日、安全対策委員会の北島英明委員長の指導による「緊急時現地(遭難対策本部)対応シミュレーション研修」が、立川女性総合センターで行われた。参加者は安全対策委員と山行委員会から各10名で計20名。

研修前半はマニュアル資料「遭難事故(ケガ、疾病)対応シミュレーション研修実施フローチャート」に基づき、山岳遭難救助の経験豊富な委員長が様々な状況における事故者への対応や容体の判断、救助要請のノウハウ等を詳細に解説した。実地体験に裏打ちされていて、とてもわかりやすかった。

研修後半では山行委員6名によるロールプレイ式シミュレーション。6名は事故



者、リーダー、サブリーダー等の役をそれぞれ分担し、事故発生時、現場で具体的にどのように行動すべきかアドバイスを受けながらロールプレイを実習した。

時間の関係でロールプレイができたのは1組だけだったが、委員長の遭難救助現場でのリアリティのある体験談が興味深く、ロールプレイ後も活発に議論が交わされた。とても内容の濃い研修だった。

(写真/上・高砂壽一、左・吉川三鈴)

事故者の状態を確認する実習

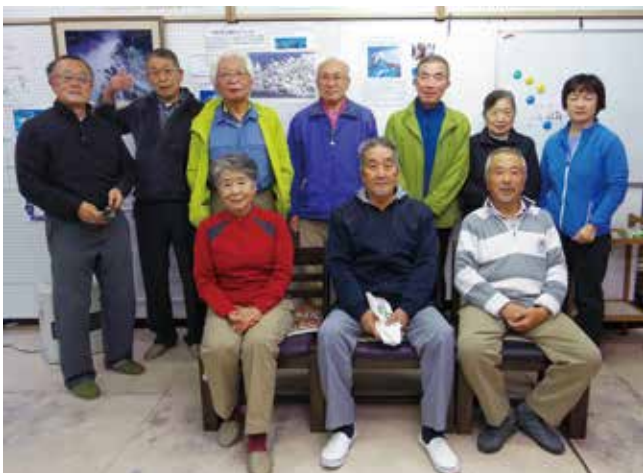


思わず引きつけられる  
北島委員長のお話

## 「錦秋と散策と恒例芋煮会」+「エベレスト登山こぼれ話」

### 奥多摩BC運営委員会

11月28日、今年はまだ紅葉が残る奥多摩むかし道を散策する。11月28日、惣岳バス停でバスを降りて、暖かな日差しの中、BCまでの道をゆったり歩く。「しだくらの吊り橋」から惣岳溪谷を望み、樹齢200年の巨樹「いろは楓」で記念写真。オレンジ色の葉が日を浴びてキレイだった。不動の上滝で休憩。下り最後の休憩場所の槐木(さいかちぎ)は刺と枝だけだったが、時期にはさや豆が出来るそうで、豆のある時期に奥多摩湖まで登ってみたい。おしゃべりしながら森林浴を終え、お腹も空いた頃、BCに到着。坂本さんが台所でかいがいしく用意してくださった芋煮会スタート。暖かい芋煮をよそって食べた。食後、神崎講師に50年前のエベレスト登山隊やスキー隊の話など熱く語っていただいた。あっという間の2時間だった。芋煮のおつゆでカレーうどん



をペロッと食べて、今年の芋煮会を終えた。参加者は神崎氏  
の他、今田、小野、木村、小嶋、小山、金、竹中、西村、中村  
(敦)、坂本の10名だった。(文/中村敦子)

コロナ第三波で苦慮したが、8月から始まった「エベレスト  
登頂50周年記念」企画をめる意味でも開催することにした。  
出席者は仲間のような会員ばかりで、神崎氏も「講演会では  
なく、座談会にしたい」とのことで、エベレストのこぼれ話、  
JACのことなどを伺った。(文/坂本正智)

芋煮会の行われた奥多摩BCにて

## &lt; 第2期中級登山教室 &gt;

## クライミングジム実習 — 初歩のトレーニング —

【日 時】2020年10月31日(土)

【天 候】晴れ

【参加者】13名 / 講師：L宮崎、北島、中村(正)

受講生：石川、大澤、小澤、長岡、中村(敦)、広瀬、藤本、松島、山内、渡辺

## 【記 録】

第2期中級登山教室もコロナ禍の影響を受け当初の予定(八ヶ岳縦走)を変えて、クライミング研修をクライミングスポット「モモンガ」(飯能市)ですることになった。クライミングギアの初歩を、鎖場等の通過に備えて学ぶという目的だった。事前の座学講習で、エイトノット、インクノット(クローブヒッチ)、ムンターヒッチなどの反復練習を行った。実習にはロープの結び方と道具の準備を確認して参加した。

当日は、山行にも行きたくなる程の秋晴れ。真っ青な空のもとで初めてのクライミングを体験できることに、皆、高揚しているようだった。しかし見上げたウォールの高さに息をのみ、用意されたギアの数々を見て緊張する。気を付ける注意点、それにギアやハーネスの使い方など、講師による丁寧で熱心な説明に必死で耳を傾ける。これから実践できるレベルにまで上達できるのだろうかという不安も、沸き起こってくる。

いざ実技講習が始まってみれば、皆、ウォールに登るたびに意気があがり、高度感にもすぐ慣れた。一方、講師がビレイヤーとして保持してくれていることの大切さや安心感も実感した。



熱心に説明する北島講師



軽々と手本を示す

また、今後、自分が同じような安心感を与えることができるレベルになれるか自問自答した。

クライミングに限らないかもしれないが、特にロープクライミングでは、ビレイヤーへの信頼がないと、クライマーが余計な体力を使うことや、下降中に不安が起きることを実感として理解できた。最後に懸垂下降をムンターヒッチで行ったが、ロープに身を預けることに受講生も慣れた様子だった。とにかく大変有意義な研修だった。何度でも参加したいと思う。

(文/長岡誠治 写真/大澤則彰、渡辺誠)

受講生も挑戦



モモンガのボードの前で



## &lt; 中級登山教室 &gt;

## 白杵山 —地図読みで奮闘—

【日 時】2020年12月12日(土)

【天 候】曇時々晴

【参加者】9名/講師:宮崎(山行L)、北島、中村(正) 受講生:藤本、大澤、山内、中村(敦)、小澤、広瀬

【行 程】8:22 武蔵五日市駅=(バス)=8:40~50 沢戸橋→10:00 戸倉城山→10:35 十里木分岐→

11:40 荷田子峠→12:00~12:30 昼食→13:30 白杵山→15:40 元郷BS=(バス)=JR 武蔵五日市駅解散

## 【記 録】

宮崎講師より今回の山行目的である地図読みの説明を受け、コンパス以外の機器の使用を禁じられる。数か所のポイントで、位置確認テストを実施すること。スタート地点の標高はおおよそ193m~200mであることを確認。スタート後間もなく、登山口不明で早くも道迷い。住民のアシストを受け、講師から配布された地図を左手に持ち、使用されていない昔道から急登。

2か所の位置確認ポイントを経て、地図読み。南面には広葉樹、北面は針葉樹と地図記号どおりであることを確認。計画を30分オーバーして、戸倉城山(434m)に到着。戦国時代には北条氏の城があったとすることで眺望は良好。

十里木分岐を過ぎた地点でペースに乗り、荷田峠を経た5つ目の位置確認ポイントで昼食。グミ尾根をグミの木山(656m)は意識せず通過。6つ目と7つ目の位置確認ポイントの中間737m付近に地図上では南下する分岐があるはずだったが、確認できないまま白杵山直下の分岐に到着。後で巻き道を経たことが判明。この時点で、遅れていた30分を取り戻す。

白杵山(842m)は、市道山、刈寄山とともに戸倉三山の1つで、南に市道山、北に秋川溪



白杵山山頂にて

谷に至るあきる野市と檜原村がある。その後、2か所の位置確認ポイントで休息をとりながら下山。くぬぎの黄、紅葉の赤が所々に残っており、後半は富士山も所々で見えた。ほとんど無風状態で、12月としては暖かく快適だった。

城山を経た後、白杵山までは一本道で、標高もさほど高くなく楽勝と思いきや、実際には数えきれないほどの上り下りの急坂や、落ち葉のために滑り、苦戦した。戸倉三山は侮れないとの感想を持った。地図読みを一步深め、コンパスの使用方法和、方向角の利用法について学んだ山行だった。(文/小澤知信 写真/藤本浩文)

## ミニレポート

## 谷川岳馬蹄形縦走

日程/2020年10月31日~11月1日

参加者/西山、中原

行程/10/31 土合駅→白毛門→朝日岳→清水峠避難小屋

11/1 清水峠避難小屋→蓬峠→谷川岳→土合駅

## 朝焼けの谷川岳



昨年大雨のためにハーフで断念した馬蹄形縦走。前日の降雪は想定内だったが、積雪量は想像以上だった。最高の天気にも恵まれてリベンジ達成!  
(中原三佐代)



朝日岳山頂から歩いてきた稜線を振り返る  
←白毛門山頂

&lt;10月定例山行&gt;

## 鶴ヶ鳥屋山 — 静かな晩秋の低山を歩く —

【日 時】2020年11月14日(土)

【天 候】快晴

【参加者】20名/L石橋、[1班]L富永、SL鬼村、中村(正)、山内、人見、吉田、小池

[2班]L齋藤、SL酒井、皆川、加瀬、金山、清水(節) [3班]L広瀬、SL小野、川合、三ツ井、今野、佐久間

【行 程】8:25 JR中央線笹子駅集合→林道船橋沢終点→林道黒野田線→12:30山頂→林道黒野田線→  
16:00丸田沢(解散)→JR中央線初狩駅

【記 録】

8:25、総勢20人が笹子駅前に集合し3班体制で歩き始める。湿っぽく薄暗い林道から船橋沢添いの山道を南に辿って行き、何度か徒渉を繰り返すうちに、1時間ほどで尾根への登り口に着いた。

標高差150mほどの急登をひたすら耐えると傾斜はいくらか緩む。送電線を潜ってなおも登り続け、黒野田林道を越えるとやがて尾根上の鞍部に達した。本社ヶ丸から東へ続く尾根で、ここまで上がると眼前に広がる展望に気持ちが解放される。



山頂から木の間越しに富士山を望む

覗く富士山と南アルプスや八ヶ岳を眺めている。遮るものない展望ではないが、控えめながらも心に染みる光景を楽しんでいるように思われた。

ずっと山頂にとどまっていたいが、晩秋の陽は短く、13時を廻ると急に陽が傾き始める。下山にはまだ2、3時間は必要なので先を急ぐことに。山頂から北東へ向かって標高差200m以上の斜面を急下降する。路面を覆い隠す枯れた落葉はよく滑り、隠された石や木の根に注意しながら下ると、やがて黒野田林道に降り立った。林道開削により崩された尾根に登り返し、緩やかに下っていくと恩賜629号標石の地点でルートが二分する。ここを南東に進み小一



尾根を山頂に向かう

この尾根を東に向かって小さな起伏を繰り返しながら辿って行く。尾根道や小ピークの鞍部には落葉が降り積もっている。カサッ、カサッ、歩を進めると乾いた軽やかな音が周囲に溢れる。

晩秋の中央線沿線の山々は落葉が降り積もり心地よい。カサッカサッという音を聞きながら1時間ほど歩いて行くと鶴ヶ鳥屋山の頂上に登り着いた。

正午を過ぎた快晴の空の下、山頂にはのどかな空気が漂っている。数人の登山者が憩い、木の間越し



新人です  
よろしく!  
川合薫さん

アウトドアとは全く無縁だった私が友人の誘いを受けて7期を受講。高尾山の花々や稜線に吹く爽やかな風に魅了されました。登山はいつも自分へのチャレンジと実感しています。



時間で丸田沢の沢音を聞くようになり、16時には全員が下り着いた。後は初狩駅まで林道と車道を歩くだけだ。(文/石橋 学  
写真/鬼村 邦治、酒井 俊太、齋藤 理恵子)

鶴ヶ鳥屋山山頂にて

## &lt;12月定例山行&gt;

## 鍋割山 一小丸尾根から後沢乗越へ

【日 時】2020年12月12日(土)

【天 候】曇り一時晴れ

【参加者】14名/[A班] L赤坂(憲)、SL富永、齊藤(理)、山本(曜)、加瀬、金山、川島

[B班] SL石橋(學)、小野(勝)、内藤、野口(い)、嶋田、石川(由)、人見

【行 程】7:30 渋沢駅=(タクシー)=7:45~8:00 表丹沢県民の森入口→8:30二俣→11:20小丸→11:50~12:20鍋割山  
→13:20後沢乗越→14:10二俣→15:20大倉バス停

## 【記 録】

渋沢駅に集合しタクシーで登山口に。コロナ第3波の最中だが、登山口の駐車場は車で満杯だ。

四十八瀬川を遡る30分ほどの林道歩きで二俣に到着。近くに尾関廣氏の胸像がある。日本山岳連盟の設立に尽力した方とのことだ。勘七ノ沢を渡ると直ぐに分岐になり、小丸尾根へと進む。小丸尾根はかつては近くに県立登山訓練所があったことから、訓練所尾根とも呼ばれる。

ここから本格的な登山道となり、標高差800mほどを登る。道はよく整備されており、傾斜も適度で登りやすかった。多くの人は後沢乗越へと進むので、静かな尾根歩きを楽しめた。落ち葉を踏む足が心地よい。麓の方には、まだ所々に紅葉が残っており、赤や黄色が目鮮やかだった。登るにつれ尾根が痩せてきて馬酔木が目立つようになる。このあたりから徐々に雲が切れて青空が広がり始めた。早朝の曇天に展望は無理かな、と諦めかけていたので、うれしい。さらに登ると草原状になり、富士山から箱根にかけての展望が一気に広がった。

そこから程なくして稜線に出た。メインストリートに出た感じで、多くの登山者が行きかっている。右に行けば塔ノ岳、左に行けば鍋割山。ここが本日の

鍋割山稜を進む  
正面に鍋割山と富士山

最高到達点1350mである。鍋割山1272mへは緩やかに登降しながら下っていく。鍋割山へと尾根を進む右手には丹沢主脈が堂々とした姿を見せていた。道沿いには様々な樹形のブナが現れる。地味な小丸ピークを過ぎると鍋割山が見えてきた。ちょうどお昼時に鍋割山頂に到着。鍋割山荘には、名物の鍋焼きうどんを買い求める長い列ができていた。かつては萱場だったという山頂部は広々として見晴らしがよい。富士山と愛鷹山、箱根、その向こうには伊豆半島の山々。近くには丹沢主稜の山々が連なっている。富士山の右隣に南アルプスが見えている。

昼食後、集合写真を撮り、ほぼ予定通りに下山開始。後沢乗越を経由して二俣に戻る。登山者が多い。ミズヒ沢出合まで下ると、後は大倉までの林道歩き。長い林道歩きに飽き飽きしてきたころ、大倉バス停に到着。思いがけない大展望と晩秋の丹沢を十分に満喫した山行だった。(文・写真/内藤誠之郎)

## 新人です よろしく! 山本曜子さん

元々アウトドアは好きでしたが、若い時はどちらかというと海派でした。7期初級登山教室に入って定期的に登山するようになりました。「鬼滅の刃」で奥多摩の山々が注目されて嬉しいです。時世が許せば、アルプスや東北の山などちょっと遠くの絶景も見に行きたいです!



鍋割山山頂にて

## &lt;10月平日山行&gt;

## 三浦半島最高峰大楠山 ー展望と変化に富んだコースを楽しむー

【日 時】2020年10月21日(水)

【天 候】晴れ

【参加者】7名/L酒井(俊)、SL石橋、小野、高砂、西村、川島、吉田(博)

【行 程】9:30京浜急行安針塚駅→9:55～10:15塚山公園・三浦按針墓→11:00大楠登山バス停→  
12:20～13:00大楠山山頂→14:00前田川→14:25 前田橋バス停解散

## 【記 録】

9:30に安針塚駅前を出発し、住宅地の急な坂道を登っていくと30分ほどで「塚山公園」に着く。ここは徳川家康の信任を得て造船術や航海術を伝えたが晩年は不遇であったと言われる「三浦按針」が眠る地。落ち着いた雰囲気のある公園だ。

公園から横浜横須賀道路に沿って下り「下山川」に沿って車道を辿る。県道27号に出て200mほど東に進むと「大楠山登山口バス停」に着く。ここから登りが始まる。住宅地の細い道を進み、横浜横須賀道路を潜って西側へ出て山道に入る。右に廃業した「安



房総半島や相模湾が目の前に広がる

次第に川から離れ、「葉山国際CC」の縁を歩き、最後に230段の階段を登ると大楠山山頂だった。

快晴の空の下、開放的な広場に多くの人達が休んでいる。穏やかな光景だ。一段上の展望台に登ると西の富士山や丹沢山塊、江ノ島は霞んでいて残念だったが、三浦の海岸や遠く房総まで遠望できた。海を間近に望める良い山頂だ。

13:00に下山を開始。雨量観測所、電波塔を見送り、階段混じりの滑りやすい濡れた道を下る。途中、登ってくる何人かの人とすれ違い、足元の悪さを気の毒に思えた。滑りやすい道に辟易しながら下り続け、14時前に「前田川」の橋を渡って林道に下山。のんびりと林道を歩き、国道134号の「前田橋バス停」で解散。穏やかな秋の光が溢れる登山日和の中の山行だった。(文/石橋学 写真/高砂寿一)

😊 川島博子さんと 😊 吉田博子さんの感想/快晴の元、塚山公園からも大楠山からも展望が素晴らしく、東京湾、横須賀港、米軍の軍艦、猿島、横浜、相模湾、房総半島、大島を見渡す360度のパノラマで、感激しました。充実感一杯の楽しい山行でした。



倍倉温泉」への道に分け、「平作川」を渡り返して行くと木段の登りが始まる。

塚山公園への坂を上る

展望抜群の大楠山山頂で



## ミニレポート

## 初冬の甲斐駒ヶ岳 ー黒戸尾根往復ー

日程/2020年10月20日(火)～21日(水)

参加者/清水(義)、会員外4名(赤石岳避難小屋 榎田管理人他)

行程/10/20 尾白川渓谷PA→七丈小屋

10/21 七丈小屋→甲斐駒ヶ岳→七丈小屋→尾白川渓谷PA

黒戸尾根を梯子や鎖を頼りに登って七丈小屋へ。翌朝は冬装備で雪道を辿り、鎖場を登る。山頂から白く輝く仙丈ヶ岳と白峰三山、それに八ヶ岳、浅間、北アルプス、白山、立山、剣岳等を眺望。名山のオンパレードだった。(清水義浩)



甲斐駒ヶ岳山頂

烏帽子岩二本剣





&lt;11月平日山行&gt;

## 南アルプス最北端の守屋山 ー諏訪湖を見下ろしてー

【日 時】2020年11月19日(木)

【天 候】曇り時々晴れ

【参加者】9名/L石橋、鬼村、小野、川島、佐久間、西村、人見、山内、吉田

【行 程】9:15中央線茅野駅=9:40守屋新道(立石コース)入口→10:40百畳岩→一休平→11:30東峰→12:00~30  
守屋山山頂・西峰→東峰→13:00アカエ沢源頭キャンプ場→14:00杖突峠登山口=14:30中央線茅野駅

【記 録】

諏訪湖を見下ろし、南北中央アルプスや八ヶ岳に囲まれた展望の山“守屋山”。だが、高気圧が退潮期に入り天気は下り坂。大展望は望めそうにない。

茅野駅前から乗車したタクシーを杖突峠先の守屋新道入口で下車。9:40、落葉に覆われた登山道を登り始めた。枯れた落葉はよく滑る。足元に注意しながら登っていくと亀石が現われ、立石コースの看板“岩巡り”の始まりだ。僧侶に見えるという立石、夫婦岩、屏風岩、鬼ヶ城、そして百畳岩。次々に現われる巨岩・奇岩を見るのが楽しい。1時間で着いた百畳岩では岩の上からの広い眺望が待っていた。

眺めを楽しんだ後も登り続けて行くと11時過ぎに一休平に出た。そこは前嶽と東峰との鞍部で前嶽には四等三角点が付いている。やがて杖突峠からの道を併せて東峰に出る。そこは遮るものがなく、視界は一気に広がる。西側に守屋山々頂(西峰)が見えるが、まだ少しの距離がある。守屋神社奥宮に挨拶をして通り過ぎ、中嶽の小さな起伏を越えて進



守屋山山頂にて

守屋山山頂から  
諏訪湖と  
美ヶ原を望む奇岩・立石。  
左端に映っている  
人物を見ると  
岩の大きさがわかる

むと20分ほどで守屋山山頂に着いた。

昼時とあって、山頂には大勢の登山者が寛いでいる。地元の山岳会がしつらえた丸太ベンチがあり、植生の保護もされて地元で大事にされているのが嬉しい。さすがに一等三角点の山の展望は広い。周囲の山々は雲がかかっていたが、眼下の諏訪湖と北側の美ヶ原が大きな姿を見せていた。

ゆっくりしている間に風が出て冷えてきたので、12:30、下山を開始。東峰まで戻って、アカエ沢源頭のキャンプ場へ。避難小屋のあるキャンプ場を13:30に発ち、荒れた沢沿いの道を迂回して林道を歩く。道が緩やかに登る辺りで駐車場へ向かう下降路に入った。14:00に登山口に杖突峠に着き、タクシーで茅野駅へ。(文・写真/石橋 学 写真/鬼村邦治)

## ミニレポート

## 初冬の丹沢の源次郎沢

日程/2020年11月15日(日) 参加者/野口(い)、会員外4名  
行程/戸沢出合→源次郎沢(F1~F11)→花立→天神尾根→戸沢出合

F1(最初の滝)



F6(6番目の滝)までは水があり、シャワーを浴びる。F7からは涸滝となる。ロープを出す滝が多く、クライミングを楽しんだ。景色は紅葉の晩秋から、上がるにつれ初冬の冬枯れになった。(野口いづみ)



F6の3段12m滝に登る



F10の8m垂直壁に登る

## &lt;名山を楽しむ会&gt;

## 鳥甲山 ー紅葉から霧氷の尾根につめるー

【日 時】2020年10月24日(土)～25日(日)

【天 候】曇り時々晴れ

【参加者】5名/L佐藤(守)、SL酒井(真)、富永、齋藤(理)、西山

【行 程】10/24 秋山郷 切明温泉前泊

10/25 6:20貉平登山口→9:50白嵩山→11:45山頂12:00→13:00赤嵩山→14:00屋敷山鞍部→16:45屋敷登山口

## 【記 録】

「鳥甲山」、とりかぶとやま、ごつくてありきたりではない名称の山は口端に上がれば忘れようがないので、山行企画を見た時点で好機だ!と思ったのだ。昭文社地図では「!」マークが登山道に四つ。一般登山道であるし、紅葉の申し分ない時期であることが背中を押した。

南北に走る秋山林道に5kmほど離れて2つの登山口がついている。ムジナ平と屋敷だ。周回すると地図上に林道を右辺にした三角形ができる。山頂を起点にしたその登りと下りの尾根線が鳥の両翼のようだ。登山口で見上げた山容はその見立てた鳥の胸ぐらで、岩峰や岩稜の壁になっている。

秋山郷村内の住民用のタクシー「山タク」は登山者などの利用も可能で、リーダー達が屋敷に車を置きにいき、山タクでムジナ平登山口へ戻ってきた時には他に数パーティ、20人強ほどが登山準備をしていた。6:20、無風。曇りがち。1020mの登山口から木々は黄色をまとわせている。ゆっくりと標高を上げていく。待ち時間に見上げた紅葉の中に入り込んでいくのだ。

日が差しだしたのは7時過ぎ。風もなく太陽が背中に注ぐとすぐに暖かい。小水の頭1437mで休憩。



赤や黄色が一番濃い地点ではないか。やがて、6mほどの岩場。梯子と鎖がかかっている。踏み外せば紅葉の山肌にダイブだ。

鳥甲山山頂にて  
(2038m)



紅葉の白嵩山



鎖を頼りに登る



崩れやすい岩場

尾根筋の急な登りを一つ上がると次のピークが見える。二つほど越えて見上げた紅葉の奥に白い樹林のピーク、昨晚の雨が霧氷に変えたのだろう。1700mあたりから雪の残渣がみられた。尾根の稜線歩きは下りの片翼を見せてくれる。赤土のザレた山肌のピークが赤嵩ノ頭だろう。9:45白嵩山、途中やせた尾根をググっと下るがロープと鎖を頼りにやり過ごす。11:45山頂。曇り基調の山頂で昼食をとる。14名のパーティが上がってきたので入れ替わりで下ることにした。登りの岩場とナイフリッジの尾根が正念場と思っていたが、実は下りが核心部であったのだ。急傾斜で泥濘の道、木の根や岩が落ち葉に埋もれていて、足を滑らせ尻もちをつきながら、4時間30分ほどかけて屋敷登山口に下り着き、安堵の吐息をついた。

(文/ 西山さより 写真/佐藤守)

## &lt;低山を楽しむ会&gt;

## 多摩百山の馬頭刈山

## — 泉沢尾根を登る —

【日 時】2020年10月27日(火)

【天 候】晴れ

【参加者】6名/L本多、SL石塚、小清水、佐伯、竹中、松川(征)

【行 程】9:00武蔵五日市駅=(バス)=和田向→9:35泉沢登山口→(泉沢尾根)→11:50~12:25馬頭刈山→高明山→14:00高明神社址→15:30軍道→十里木バス停=(バス)=16:15武蔵五日市駅

## 【記 録】

秋川溪谷の上流、和田向バス停から泉沢集落上の登山口まで歩く予定だったが、たまたまバス停前にコミュニティタクシーが停まっていた、登山口まで一人100円で行ってくれるという。歩けば30分はかかるところなので乗っていくことにした。

「馬頭刈尾根」の標識の登山口からすぐに急登が始まる。ジグザグで10~15分登るが、あまり登る人はいない。この日も下山するまで一人にも出会わなかった。登山口から45分位、「森林再生事業」の立て札があるところまで急登を順調に登ると少し広い尾根道に出た。ゆるい登りや平坦な尾根道歩きもまじえて、右(東側)に暗い杉の植林、左に明るい雑木林の間の道を、本多さんを先頭に、言葉少なく登る。

いくつも立っている馬頭刈尾根の標識の2つがかじられていたり、半分の所で折られている。熊がかじったのかなと顔を見合わせる。



ミヤマシキミ



馬頭刈山山頂にて

展望がない中を登り続けてやっと明るい馬頭刈尾根の上に出る。歳と脚を考えて予定した時間通り。まあまあ良く歩いたということだ。木々の間から大岳山がかすかに見える山頂のベンチで昼食をすませ、軍道への道を下る。木々の葉が黄色に色づいている。深く掘れて荒れた道で、上りより手こずって遅れて軍道に下り着いた。(文・写真/石塚嘉一)

## コロナ禍の支部事業

幹事長 佐藤 守

新型コロナウイルスの感染拡大は治まらず、再び緊急事態宣言が発出されています。感染リスクを避けるため、令和2年度の支部総会を郵送による議決権行使方式に変更しました。また、各種行事は下記の通り多くが中止を余儀なくされました。さらに、夜間の外出自粛が求められ各種会議の開催も難しくなっていることから、WEB会議を導入し、幹事会や一部の委員会では活用しています。

日本だけでなく世界中が困難に直面しています。支部にとっても今が我慢のしどころです。コロナウイルスの心配をせずに楽しい山歩きが出来る日を待ちましょう。

## — 中止となった主な行事 —

- ・講演会・講習・・・セルフレスキュー講習、メディカルハイキング
- ・会員懇親行事・・・納涼ビアパーティ、奥多摩BC生ビールと花火
- ・支部創立10周年記念事業・・・海外トレッキング・懇親山行
- ・定例山行・平日山行・・・20回中13回が中止
- ・登山教室・・・初級は全面中止、中級は一部日帰り登山のみ実施



お地蔵さまも全員マスク(狭山・佛眼寺)

## インフォメーション／山行・イベント

★は「体力／技術」

## ＜山行委員会／定例山行＞

◆**浜石岳（静岡）** 2/27(土) 体力★★／技術★  
大展望を楽しみ歴史の峠道を歩く。集合 /JR 東海道本線由比駅 8:40、由比駅→曙橋先の登山口→西山寺→青少年野外センター→浜石岳山頂→但沼分岐→立花分岐→承元寺分岐→薩埵峠→旧道薩埵峠→興津駅、歩行 /6 時間、申込 / 石橋、締切 2/17(水)

◆**美ヶ原** 3/13(土)～14日(日)  
体力★★／技術★  
雪原をスノーシューで楽しむ。集合 /JR 下諏訪駅 10:10、13 日 / 下諏訪駅＝美ヶ原高原ホテル山本小屋→王ヶ頭→王ヶ鼻→山本小屋(泊)、14 日 / 山本小屋→茶臼山→山本小屋→牛伏山→物見石山→山本小屋＝下諏訪駅、歩行 /13 日 3 時間 50 分、14 日 6 時間 40 分、申込 / 小野、締切 3/6(土)

◆**三ッ森北峰・麻生山・権現山（中央沿線）**  
4/17(土) 体力★★／技術★★  
春の里山歩きを楽しむ。集合 /JR 猿橋駅北口 08:10、(上和田行きバス)＝杉平入口→三ッ森北峰→尾名手峠→麻生山→権現山→浅川峠→浅川バス停＝猿橋駅、歩行 /7 時間 35 分、申込 / 石橋、締切 4/7(水)

◆**釈迦ヶ岳（御坂）** 5/22(土) 体力★★／技術★★  
御坂のピラミッド。集合 /JR 石和温泉駅 08:20、石和温泉駅＝檜峰神社入口 B T →トビス峠→神座山→釈迦ヶ岳→府駒山→すずらん群生地(タクシー)＝石和温泉駅、歩行 /5 時間、申込 / 中原、締切 5/12(水)

◆**平標山・仙ノ倉山（谷川）**  
6/19(土)～20日(日) 体力★★★／技術★  
上越国境の花の山。集合 /JR 越後湯沢駅 15:00、19 日 / 越後湯沢駅＝元橋 BT→民宿(泊)、20 日 / 民宿→平標山登山口→松手山→平標山→仙ノ倉山→平標山の家→(平標新道経由)→平標登山口 BT＝(入浴)＝越後湯沢駅、歩行 /8 時間、申込 / 佐藤、締切 5/31(月)

## ＜山行委員会／平日山行＞

◆**棒ノ折山（奥多摩）** 2/25(木) 体力★／技術★  
安全に雪山に登る。集合 /JR 青梅線川井駅 7:20(バス乗車時刻)、川井駅＝清東橋→奥茶屋→棒ノ折山→奥茶屋→清東橋＝川井駅、歩行 /2 時間 55 分※積雪等の状況で時間がかかることがある。申込 / 副島、締切 2/9(金)

◆**四阿山直下（秩父）** 3/18(木) 体力★／技術★  
福寿草を觀賞する。集合 / 西武秩父駅薬師の湯バス停 10:00、西武秩父駅＝薬師の湯→案内休憩所→両神山神社奥社→薬師の湯＝西武秩父駅、※参加者 12 名、歩行 /2 時間 45 分、申込 / 副島、締切 3/5(金)

◆**矢倉岳（箱根）** 4/15(木) 体力★／技術★  
新緑の草原広がる山頂。集合 / 新松田駅バス停 09:10、新松田バス停＝矢倉沢バス停→矢倉岳→万葉公園→地藏堂バス停＝新松田駅、歩行 /4 時間 30 分、申込 / 中原、締切 4/5(月)

◆**鳴虫山（日光）** 5/20(木) 体力★／技術★  
シロヤシオツツジの咲く鳴虫山。集合 / 東武日光駅 09:30、東武日光駅→神ノ主山→鳴虫山→独標→やしおの湯分岐→憾満ヶ淵→東武日光駅、歩行 /4 時間、申込 / 佐藤、締切 5/10(月)

◆**金毘羅山（奥多摩）** 6/17(木) 体力★／技術★  
アジサイの山へ軽ハイキング。集合 / JR 武蔵五日市駅 10:10、武蔵五日市駅→薬師堂→金毘羅公園→金毘羅山→南沢アジサイ山→JR 武蔵五日市駅、歩行 /4 時間、申込 / 赤坂(優)、締切 6/6(日)

## ＜連絡先＞

赤坂 優貴	bcnr33kai98@gmail.com	090-1692-3637
石橋 學	m.ib@gaea.ocn.ne.jp	090-2670-0895
小野 勝昭	katuaki.ono@gmail.com	090-9014-7251
佐藤 守	Jac13431@sky.plala.or.jp	090-2498-7096
副島 一義	mayu333soe@nifty.com	090-5778-7336
中原三佐代	nakahara334ron@gmail.com	090-2652-2450



中止

## ＜第 30 回「山好きの山の絵展」＞

主催 日本山岳会 アルパインスケッチクラブ  
会期 2/21 日(日)～27 日(土) 10 時～18 時  
(初日は 11:45 から。最終日は 17:00 まで)  
会場 東京交通会館 2F ギャラリー  
(千代田区有楽町 2-10-1)  
クラブ所属の支部会員：田邊、原山、菅沼、田中(清)、笠原、宇田、清水、長澤

## 会務報告

### 幹事会報告（特記事項のない委員会の報告は省略。詳細は支部 HP「会議案内」を参照）

#### 124-126 回幹事会出欠

出席：野口支部長（会報兼務）、高橋副支部長（10周年記念兼務）、佐藤幹事長、北島事務局長（安全対策兼務）、小澤（総務）、佐久間（財務代理）、三ツ井（12月・財務補佐）、岡田（ICT）、高砂（山行）、河野（自然保護、登山教室 PT）、中村（敦）（奥多摩 BC）、村岡、石井（12月・古道 PT）（監事）小口、竹中 記録：佐藤（10,11月）、北島（12月）  
欠席：高橋（11・12月）、佐藤（12月）、植草（10～12月）、小口（10月）

会場：立川女性総合センター 5階第1会議室

#### ■第124回 幹事会報告

日時 2020年10月20日（火）18:30～20:45

[野口支部長挨拶] 雨によって支部山行3件が中止になった。今後は天気にも恵まれるよう願っている。

[審議事項]（安全対策）遭難事故一覧を支部 HP に掲載したいとの提起があり、掲載了承。（幹事長）PTについて提言。自然保護委から「野火止保全活動」PT 移行の提起があった。本部同様に支部でも PT の規程等を明確にする必要がある。また、担当幹事から PT の活動状況を幹事会に報告する必要がある。現在 PT は登山教室のみだが、野火止以外にも古道調査 PT の設置が見込まれる。登山教室との調整、規程の整備などが済むまでの間、野火止保全活動は自然保護委内のワーキンググループとして活動してもらう方法もある。（総務）新春の集いは中止。功労賞表彰は周年行事とするには、対象者は高齢が多いので配慮すべきとの意見があり、総務委で再検討する。

[委員会報告]

（財務、総務、安全は別表参照）

（北島、事務局）9/26に本部主催の全国支部合同会議が Zoom 併用で開催。内容は、令和2年度に限り新型コロナの影響で未消化となった支部交付金の本部への返金は求めない、全国山の日協議会理事長に JAC の梶雅彦氏が就任、年次晚餐会中止、会員名簿の発行の経過、各支部の登山届提出状況、120周年記念事業山岳古道調査の実施などだった。（小澤、総務）新入会員オリエンテーション実施（会報42号 p.1）。支部会員名簿は10月中旬に編集を終了し、発送の予定。会員名簿は隔年発行とし2021年度は発行しない。

（高砂、山行）9月の王岳、丸山、10月の天目山は雨天のため中止。Zoom 使用の会議の運用を検討。

（野口、会報）今日になって新たに山行、講演会などの企画が出されたが、会報はほぼ組まれており、原稿の修正に追われる。企画は幹事会で発表する前に会報委に知らせてほしい。

（河野、自然保護）野火止の保全活動と「秋の観察会」、講演会（石井誠治講師）を予定。

（北島、安全対策）登山計画書の受理は10月北島、11月中村（哲）、12月佐藤、1月以降は未定。

（中村、BC 運営）支部報の合本費用を BC 委残予算から支出すると報告したが、予算の目的外使用になるので財務委との調整が必要。「奥多摩芸術祭2020」（10/11～11/27の日曜日開催）へ参加予定。

（河野、登山教室）次年度は貸切バスを利用せず、宿泊山行せず、公共交通機関を利用して実施する。

[監事からの意見]（竹中）コロナ禍だが、協力して意欲的にやって欲しい。遭難事故防止に向けて啓発に努める必要がある。

#### ■第125回 幹事会報告

日時 2020年11月17日（火）18:30～20:20

[野口支部長挨拶] 自然保護委員会講演と11月の定例山行は盛況だった。支部主催のイベントや山行が正常化していくことを願っている。

[審議事項]

（幹事長）委員会事業計画案を審議。大部分は2020年度にコロナ禍の影響で実施できなかった事業の再計画で異論はなかった。10周年記念事業「ザンスカール未踏峰登山」は1年延期になり参加できなくなった隊員がいる。埼玉・神奈川支部から参加希望があり、隊員の選定を北島遠征隊長に委ねる。（総務）本部から要請のある2021年度当初の支部会員見込み数315名と2021年度の新入会員見込み数20名について説明。（財務）2021年度予算計画案を審議し、一部見直しを前提に了承された。2020年度で使用する機会のなかった特別事業補助金について、2021年度の計上方法を見直す。（自然保護）野火止保護活動で2021年度予算請求予定だった用具類を今年度予算で前倒しして購入したいとの希望があり、承認された。（山行）Zoom 会議を他の委員会も含めて支部全体で利用できるようにする。（山行、登山教室）2021年度定例山行・登山教室の日程について承認された。（古道調査）本部から「山岳古道調査」の概要が示されており、2021年3月に調査対象の「古道」をリストアップする必要がある。本部 PT に石井氏が所属しているので、12月の幹事会で石井氏から説明を受けて共通認識を持てるようにしたい。

[委員会報告]

[事務局連絡] 山岳古道調査は事務局が窓口となり進めたい。

（小澤、総務）上半期予定は新入会員の交歓散策（奥多摩山開き）4/4（日）、支部総会5/16（日）、新入会員オリエンテーション6/24（木）、ビアパーティー8月（奥多摩 BC 運営委員会と調整）を予定。

（野口、会報）「会報たま」第42号を11/8に発送。11/12に HP にアップ。幹事会メンバーにゲラを送ったが返信があったのは2委員会のみ。担当部分は必ず目を通し、修正がない場合もその旨、返信してほしい。

（高砂、山行）2021年度の定例・平日山行の山行案を選定。具体案は次回以降の委員会で決定。

（河野、自然保護）野火止保全地域「秋の観察会」を10/23に10名で実施。自然保護講演会を実施（43号 p.3）。野火止全活動に東京都からのアドバイザーが派遣された（10/21）。第5回定例活動（10/5 伐採・除草）報告。

（北島、安全対策）山岳事故一覧表の HP 公開。情報に、山名、事故者の性別・年齢を追加する。11/18安全対策研修会実施予定。

（中村、BC 運営）支部報の合本製本作業をする。「おきたまアートフェスティバル」で一時利用8名。

[監事]（小口）山岳会にとっては山行が活動の中心であり、会報を見ると山行が多く掲載されており嬉しい。野火止保全活動には支部員以外の方も参加するので、日本山岳会への理解を深めてもらう啓発も必要。（竹中）支部事業に関与していない会員に会員で良かったと思ってもらえる施策はないか。

## ■第126回 幹事会報告

日時 2020年12月15日(火) 18:30～20:34

[野口支部長挨拶] 11から12月の支部山行、中級登山教室の講習会が実施出来て良かった。安全対策委員会主催の事故対応シミュレーション研修へは実り多い研修だったと聞いている。

### [審議事項]

(石井本部古道調査PT委員) 120周年記念事業「山岳古道調査」について配布資料に基づき説明。本部山岳古道調査PT(リーダー近藤雅幸理事)の依頼で「東京多摩支部古道調査報告書」を作成した(守屋龍男会員と協議し石井がまとめた)。2021年3月までに支部推薦古道の選定、古道調査PTのメンバー選任と立ち上げ、2021年4月～2024年3月に調査、地元有識者との意見交換、地元教育委員会への情宣(奥多摩町・檜原村・青梅市)を予定。上記承認。(幹事長) 2021年度事業計画案について幹事長がまとめ事務局が本部に提出する。(財務) 計画案の修正(自然保護の野火止保護活動、山行委のZoom利用料を総務委員会へ替える、事務局予算へ古道調査費用を追加)。(総務) Zoom運用は総務委が担う。利用カレンダーはICT委へ小澤幹事が依頼。支部専用のPCの購入は了承。支部の情報・資料の保管について審議あり。意見として、PCでのデータ保管にはハードの故障や容量制限があるし、データを支部委員会で共有できない。他のツール、レンタルサーバー導入などを検討して欲しい。ICT委員会HPのサーバー(月額6,000円)を利用などの意見あり。総務委で再検討する。(山行) コロナ感染再拡大に伴う定例山行等の実施方針を発表。意見として、山行人数を日帰り15名程度、宿泊10名程度となっているが、この人数はスタッフ(山行委委員)を含むのか?含むとの答えに対して、委員が多いと人数制限を設けた場合に一般の参加が制限されることになる。参加者は登山教室と違ってある程度自立した登山者なので、登山教室並みの人数で委員が参加する必要はないのとの意見あり。自粛要請発令時の山行委山行についての質問に対し、幹事会は山行委のルールを順守と結論。

### [委員会報告]

(小澤、総務) 新入会員募集のために市民祭等へ参加したい。候補日は7/17(土)、18(日)、11/7(日)。8月予定のビアパーティーの候補は8/28(土)で、会場候補は国営昭和記念公園や昭和の森ガーデン。準会員の交流にも注力したい。

(野口、会報) 編集で用いてきたソフトのバージョンが古くなっており最新のソフト使用を検討中(年間4万円程)。

(高砂、山行) 来期予算案でスノーシュー購入をやめ、ザイル等の購入費に充当。質問として、小野委員長が昨年「山行予定のアンケートを実施して2021年度の計画に反映したい」と発言したが実施したか。答えは、2022年度には反映したい。

(河野、自然保護) 秋の野火止観察会は中止。第6回定例活動(11/24実施の伐採・物置設置・他)報告。萌芽更新アドバイザーの調査があった(12/3)。チーム名を「野火止保全林の会」に変更。本部へ(株)花王から自然保護活動の情報提供の依頼あり(寄付を頂ける予定)。支部から「三ツ峠アツモリソウ保全活動」を取り上げ、三ツ峠山荘ご主人中村氏と活動原案を確認。

(北島、安全対策) 11/18「緊急時現地対応シミュレーション研修会」実施(43号p.4)。ヒヤリ・ハットの収集・分析を行い、早期に詳細を詰める。ココヘリと日本山岳会の保険を会員へ推奨するための検討を行う。

(中村、BC運営) 支部報の合本完成予定で、奥多摩BCで保管する。11/28芋煮会実施(43号p.4)。「おくたまアートフェスティバル」への一般来場者6名。大掃除(12/26)予定。1/9の「座禅会とBC小屋開き」予定。

(河野、登山教室) 8期初級登山教室を4月から再スタート。26名の登録者にアンケートを実施する。8期初級登山教室第2・3ステップから宮崎・河野の下に中級1期生を配し集団指導体制とする。

[監事] (竹中監事) コロナ禍で大変だったが、積極的な活動に感謝。(小口監事) 引き続き期待。

### 会員移動 10～12月(総務委員会)

月	入退会	人数	名前(会員番号)
10月	入会	2名	小泉明夫(A0345)、和田誠(A0350)
11月	入会	1名	浅野薫(A0351)
	退会	1名	長門彰(15185)
12月	入会	2名	福永路子(A0358)、喜多功(13875)
	退会	3名	富田実智代(16032)、平井康司(13477)、平井安乃(13478)

### 会員動向 10～12月(総務委員会) (人)

	総会員	通常会員	準会員	会友
10月末日	320	237	82	1
11月末日	320	236	83	1
12月末日	319	234	84	1

### 2020年度会費入金状況(財務委員会) (人数)

	入金者数	未入金者数	備考
10月	276	48	322(入金後退会2)
11月	284	38	320(入金後退会4)
12月	286	36	320(入金後退会4)

### 登山計画書受理・検討件数(安全対策委員会)(件)

月	支部山行	同好会山行	個人山行	合計
10月	4	0	14	18
11月	2	0	7	9
12月	3	0	6	9
10-12月合計	9	0	27	36

### BC利用状況(BC運営委員会) (人数)

	宿 泊			日帰り・一時利用(休憩)		
	会 員	会 員外	合 計	会 員	会 員外	合 計
10月	1	0	1	0	8	8
11月	6	0	6	11	6	17
12月	9	0	9	9	0	9
4-12月合計	19	0	19	51	70	121

## カレンダー (2021年3月～2021年6月)

日程	山行	イベント(講座・講演)
2/25(木)	平日山行 / 棒ノ折山 (奥多摩)	
2/27(土)	定例山行 / 浜石山 (静岡)	
3/13(土)～14(日)	定例山行 / 美ヶ原	
3/18(木)	平日山行 / 四阿山直下 (秩父)	
4/4(日)		新入会員交歓散策・奥多摩山開き
4/15(木)	平日山行 / 矢倉岳 (箱根)	
4/17(土)	定例山行 / 三ツ森・麻生山 ・権現山 (中央線)	
4/17(土)～18(日)	中級登山教室 / 金峰山 (テント泊)	
5/16(日)		支部総会 12:45(Zoom 併用予定)
5/20(木)	平日山行 / 鳴虫山 (日光)	
5/22(土)	定例山行 / 釈迦ヶ岳 (御坂)	
5/29(土)～30(日)	中級登山教室 / 富士山 (雪上訓練)	
6/17(木)	平日山行 / 金比羅山 (奥多摩)	
6/19(土)～20(日)	定例山行 / 平標山・仙ノ倉山 (谷川)	
6/19(土)～20(日)	中級登山教室 / ハヶ岳縦走 (小屋泊)	
6/24(木)		新入会員オリエンテーション

(コロナ禍により変更がありますので、実施の有無を確認してください)

### 四角だけど三角点 清水義浩

山の頂上でよく見かける三角点は、測量する際に基準となる位置を示し、地図製作にかかせないものだ。国土地理院発行の地形図に△の記号で表示されている。三角点は1等から4等まで4種類あり、全国に約11万点。1等三角点は間隔が約40kmで設置され、全国で980点あり、その柱石の断面は四角で一辺18cm、重さ90kgである。1等三角点で最も標高が高い所にあるのは赤石岳山頂(3121m)だ。

以前は山頂付近や見晴らしの良いところに設置されていたが、現在では衛星を使用した測量が主流になり、見晴らしの良い場所にある必要がなくなった。

山に登る理由は千差万別だが、さしずめ私は、「そこに三角点があるから」だろうか。三角点からの眺望を楽しみに探訪している。古いものは明治に設置

柱石に文字がクッキリ(両神山)



最高標高にある赤石岳の1等三角点

されており、長年、風雨や風雪に耐え鎮座している。そんな三角点を愛しく思うことがある。そこに先人達が重い標石を担ぎ上げた苦勞が忍ばれる。

三角点は山頂だけでなく、建物の屋上や公園の中、はたまた地下など、いたる所に存在する。最近では三角点アプリなどもあり、ポケモンゴロではないが、三角点を探しにスマホ片手に街中なども徘徊しており、もはや三角点依存症である。三角点を求めての全国行脚の旅は、これからも続くだろう。

**編集後記** ◆北島さんの遭難には大変驚かされました。しかし彼のことからきっと戻ってくるという気持ちも、どこかにありました。今回、遭難の報告を会報に載せなければならなかったことは痛恨の極みでした。北島さんの安全登山の教えを活かし、コロナ禍の折、一層、事故がない登山をするようそれぞれが心がけましょう。(野口いづみ)

会報 **たま** 第43号 2021年2月10日発行

発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部

〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-11-11  
izumi\_noguchi@yahoo.co.jp

会報委員会 野口いづみ、石川さとみ、川崎真琴  
村岡庸子、吉川三鈴  
SP 櫻井美奈子、嶋田恵美子